

石岩さんと私

—努力者—

最終レポート

グループ番号：P 名前：カルロス・ロドリゲス

1. 石岩さんの第一印象

最初の授業はグループが作られると聞いた時に、知人がいればいいと思った。多くの学生がおり、知人がいればリラックスができ、グループの中で話せるようになったと思ったからである。だから、石岩さんを見たときに本当に嬉しかった。前学期、石岩さんと一緒に同じ授業をとっても、彼と話す機会はあまりなかった。しかし、いつも日本語を勉強していたので、第一印象をもったのは少し話しにくく、まじめな人だということであった。

今学期、この授業で同じグループにおり、私の第一印象はどんどん変わった。なぜかというと、石岩さんとやっとな話ことができ、様々な内容について話したり、彼についてもう少し分かるようになったからである。第一に変わったことは全然話しにくい人ではないことである。最初にたぶん多くの人と同じように（私も）他人と初めて出会ったり、話したりする際にシャイになり、あまり話せなくなるが、それは話しにくく、積極的な態度を持たないわけではないということが分かった。第二に変わったことは論文を書かなければならなく、難しいテーマなので、たくさんのデータを集めれば中国で論文を書きやすくなるようである。今もまじめな人であると思っているが、私にとってそれは決して悪いことではないと思う。石岩さんは他の留学生のように一つ、二つのアルバイトをやっているにもかかわらず、いつも授業に出席し、宿題を持ってくるのに非常に感動する。だから、彼がいつ遊び、いつ真剣にするかが分かると思う。簡単に言い換えれば、石岩さんは大学の宿題やレポートなどがある時、それらをちゃんとやる。一方では、宿題、任務がなく、余暇な時だけに友達と一緒に遊ぶことである。

今まで、石岩さんはとても優しく話しやすい人という印象を持ち、散歩の後でもっと仲よくなれるような気がする。これから石岩さんについてもっと知りたいと思う。

2. 特に聞きたいテーマ：石岩さんの日本語との関係、将来やりたいこと

石岩さんの日本語との関係について、そして将来、何をやりたいか、どのような道に進みたいかという疑問について深めたいと思う。

私は来日して以来、秋田大学での交換留学生として、他の留学生の文化に触れることができたので、素晴らしい経験になった。これらの留学生のうちで、中国人と韓国人は最も多くいる学生である。そして、私の視点から彼らの日本語がとても上手で流暢だと思う。たぶん三つの国がとても近く、ある程度三つの言語は共通点がたくさんあるかもしれないからである。しかし、六ヶ月後、多くの中国人が本当に日本語を好んでいっているわけではなく、他の課程を勉強できなかったという理由で日本語を選んでしまったらしいと私は聞いた。これに対して、中国や韓国などのアジアの国以外、世界中からの留学生は日本語や日本文化、日本政治などに関して興味を持っており、将来できる限りそれら分野で働きたいと思っている。しかも、日本に来る理

由は日本語のレベルを上昇させ、将来自分の国でも、そして日本でもその知識を使って働くこともできることである。よって、大学で勉強するつもりではなかった課程を学習するのは非常に大変だと思っており、勉強している間、様々な経験や思考があるのではないだろうか。また、フラストレーションが出てくれば、どのように扱うのだろうか。

私自身はこのようなシチュエーションを一度も経験したことないが、チリにいた時に、あまり好きではない課程を勉強する学生の話聞いた。彼らの場合は1年、2年間の後で、そうした課程を結局諦め、本当に勉強したかった課程を勉強し始めた。

石岩さんの場合は今まで詳細なことをあまり知らず、前述したように大変なシチュエーションがあるかどうか、そしてあればどのように扱えるようになったかという点について話してみたい。しかし、それは最も知りたいことではない。その体験に基づいて将来、何がしたいか、そして、それはなぜかということについて聞いてみたいと思う。そうすれば、石岩さんについてもっと知ることができると思うからである。

3. 話し合いの結果

3.1 6月13日の話し合い

その日は三階の教室で話した。やはり夏なので、とても暑かった日だったが、雰囲気はとてもよかった。その時、石岩さんの日本語との関係について聞いて、彼は積極的に私の質問に答えた。最初に個人的なテーマかもしれないから、たぶん石岩さんはそのテーマについてあまり話したくないだろうと私は思った。しかし、彼は冷静に話し始めた。

初めに、なぜ日本語を勉強し始めたかについて話し合った。石岩さんは、日本語より中国・世界の文学のほうが大学で勉強したかったが、就職しにくいので、他の課程を考えたほうがいと述べていた。だから、石岩さんは同級生からアドバイスをもらい、そのアドバイスの中で言語は特に日本語が最もよい課程だということが分かった。なぜかという、両国は近く、共通点が多く、そしてもちろん貿易関係も進展していくからである。

しかし、入学した時、日本語についてあまり知らなくて、興味が全くなかった。しかも、日本語に興味がなかったので、石岩さんの成績があまりよくなく、一年生の時に自信が少しなくなってしまった。だが、二年生の時、ある日本人の先生と出会った。そして、その先生と親しくなると、徐々に日本語に興味が出てきた。その時に日本語に興味が出てきたのは石岩さんがその先生と話し始めたところ、違う文化に触れることができたからである。また、石岩さんの先生はとても優しく、話しやすい先生だったので、いろいろなテーマやトピックについて話し合うことができた。このように、石岩さんは次第に日本語が一生懸命勉強し始め、上手になってきた。最初は文句がたくさんがあったが、他の文化に触れたことにより、世界観も変わって日本語の勉強と日本語との関係は上達した。例えば、石岩さんは先生に日本の文化についていろいろ教えてもらった情報が自分の文化と比べ始めた。その結果、二つの文化の相違が分かるようになり、日本語と日本文化の魅力を見つけることができた。また、自分にはあることは当然だが、異なる文化を持っている人にとってそうではないということが石岩さんは分かったようである。

3. 2 6月27日の話し合い

その日は最初のインタビューの日と同じように楽しい雰囲気でも話し合った。前のインタビューでは日本語との関係について石岩さんに聞いたので、今度将来、何がしたいかについて聞いてみた。なぜかという、日本語は最初から勉強したくなかった場合は、卒業してから、日本語との関係がある仕事より他の課程を勉強して、好きな仕事をやったほういいかという疑問について知りたかったからである。

将来、何がしたいかと聞いた時に、石岩さんは少し難しく、まだ決めていないと答えた。やはりこういう質問を答えるのは難しいと私も思う。時間・年がたつにつれて人間の性格や考え方が変わるから、あることをもう決心しても状況や経験で他の決定をしなければならないかもしれないからである。しかし、石岩さんは今までいくつか選択肢があるようである。まず、せっかく日本語を勉強したので、卒業してからできれば中国で国際的な企業に勤務したく、特に、日本との関係がある企業がいいと言っている。そうすれば、日本語を忘れないで、働くことができる。

一方では、裁判所に勤務できればよいと思っている。日本語との関係がないが、石岩さんそこで働ければ、平等な社会を作るのを手伝えると思っている。しかし、裁判官になるのはとても難しい、そして、中国で弁護士の数が多いので、日本語との関係がある仕事は最も現実的なオプションであるようだ。石岩さんの話によると、子供の頃に弁護士になりかけたが、年がたつにつれてその希望はなくなってしまいうようである。すぐ大学が終わる石岩さんは自分の将来に関して真剣に考えていると、弁護士や裁判所の職業が思い浮かんだ。しかし、弁護士として働いている友人の経験とコメントから現在、職業の状況が少しよくないという結論に至った。

4. まとめ

石岩さんにとって日本語は最初に難しく、あまり興味のない言語だったが、どんどん面白いことが見つかり、結局他の文化に触れる手段になった。だから、日本語を通して日本文化、日本人の考え方などを理解できた。

石岩さんはとても意志が強い人だと思う。なぜかという日本語が難しくても、諦めないでよく頑張った、そして、その成果は今日本で交換留学生として勉強していることとして現れているからである。しかも、アルバイトをしなくても、いい成績をとり、日本語のレベルを上げることができたと思う。

石岩さんの日本語との関係についてはせっかく日本語を三年間ほど学んでいる上で、日本語を通して異なる文化に触れたので、石岩さんの志望は日本語を離したくなっている。だから、それを達成するために、頑張っている。しかし、石岩さんの話によれば、将来日本語との関係のない仕事をして、日本語を忘れないように日本語で書いた小説と新聞を読むつもりだようである。そのように、日本との結びつきが切れない。

石岩さんの経験は私との比べて、似ていると思う。石岩さんと同じように私は最初に日本語にあまり詳しくなかった。その結果、日本語の試験の成績が悪くもよくもないが、自信がなくなった。しかし、漢字が好き、ある程度得意で日本語に興味が出てきた。また、次第に成績がよくなった。今、私は5年生で日本語との関係がある仕事をするという志望を持っている。将

来は未知なので、できるかどうかははっきり分からないが、その夢が叶うようにもっと画名バラないといけないしかないと思う。

5. 授業を終えて

5. 1 文化、コミュニケーションとは何か

「文化とは何か」という質問を聞かれると、確かに国と地域だけの文化を考える。あるところの伝統的な行事や習慣、食習慣、宗教などのもとで、人の価値観が構築される。しかし、このクラスの最初の授業で先生の配った紙に書いてあったように、人の中に自分の住んでいる国や地域の文化だけではなく、体験したことある経験により、個人的な色々な文化もあるということが分かった。その原因としては同じ出身地から来る人同士がその出身地の文化を共有するが、体験により他の文化もあり、みんな違うということが言えると私は思う。

コミュニケーションというのは相手に情報・メッセージを伝達し、その相手から回答を受信するというだけではないと思う。自分の個人的な意見を言うとコミュニケーションはメッセージを伝達する際に、相手の表情、気持ちも理解することが大切である。それをすると、相手の見た目だけではなく、相手の心も見ることができると思うのである。また、情報だけを伝達する行為ではなく、本当のコミュニケーションになる。

5. 2 授業について

この授業のおかげで異なる文化を持っている人と価値観を交換できて良かったと思う。確かにテーマ、そしてそのテーマに関して質問をすることはとても難しいが、正しい態度を取れば、コミュニケーションがスムーズに流れる。また、グループの中で交流できる機会があったので、この授業をとって良かったと思う。